

短 報

群馬県産の「オオバメドハギ」と「カラメドハギ」について

大森威宏

群馬県立自然史博物館: 〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1 (ohmori@gmnh.pref.gunma.jp)

**要旨:** 群馬県で過去に記録されたオオバメドハギとカラメドハギはいずれも在来種のメドハギ *Lespedeza cuneata* やシベリアメドハギ *Lespedeza juncea* の誤同定であった。したがって、少なくとも群馬県植物誌改訂版が編集された1980年頃までにはこれらの種は群馬県には存在していなかった。ところが、2007年、緑化用種子に混入したオオバメドハギ *Lespedeza davurica* が安中市の住宅団地から採集された。

**キーワード:** 群馬県, 外来メドハギ, 分類学的取扱い, 新産

Two *Lespedeza* species called “Obamedohagi” and “Karamedohagi”  
in Japanese from Gunma Prefecture, Central Japan

OHMORI Takehiro

*Gunma Museum of Natural History: 1674-1, Kamikuroiwa, Tomioka, Gunma 370-2345, Japan*

**Abstract:** Specimens of “Obamedohagi” and “Karamedohagi” (Japanese names) collected in Gunma Prefecture and held at Numata City Library and Gunma Museum of Natural History (GMNH) were examined. All of those specimens were identified as *Lespedeza cuneata* and *Lespedeza juncea*. Moreover, *Lespedeza davurica* and *Lespedeza inschanica* were not identified among specimens in Numata City Library and GMNH. *Lespedeza davurica* was collected at Annaka City, Gunma Prefecture in 2007. Since *Lespedeza davurica* grew with exotic *Lespedeza floribunda* on a roadside slope of a housing development, it was probably introduced from China by seeds for planting.

**Key Words:** Gunma Prefecture, exotic *Lespedeza*, taxonomical treatment, newly recorded

はじめに

日本産のメドハギ類は自生種の学名に混乱があり、さらに外来種の存在によって混乱していた。群馬県植物誌の植物目録に掲載されたメドハギ類はカラメドハギ、メドハギ、ハイメドハギ、オオバメドハギで、それぞれ順に *Lespedeza juncea* (L. f.) Pers., *Lespedeza juncea* (L. f.) Pers. var. *subsessilis* Miq., *Lespedeza juncea* (L. f.) Pers. var. *serpens* (Nakai) Ohashi, *Lespedeza davurica* (Laxm.) Schindl. の学名が当てられている(戸部ほか, 1987)。ところが Nemoto and Ohashi (1999) は群馬県産のオオバメドハギの証拠となった標本がカラメドハギ (*Lespedeza juncea*) の誤同定であるこ

とを示した。ところで、現在 *Lespedeza juncea* にはシベリアメドハギの和名が充てられ、外来種 *Lespedeza inschanica* (Maxim.) Schindl. に対してカラメドハギの名が充てられる見解が示されている(大橋, 2003; 大橋ほか, 2003)。そのため、群馬県植物誌の「カラメドハギ *Lespedeza juncea*」についても正体をはっきりさせておく必要があると考えられる。加えて近年の道路のり面緑化や砂防緑化の材料としてメドハギ類が用いられることがあり(佐々木, 2002)、その中にオオバメドハギやカラメドハギなどの外来メドハギ類が出現する事例があった(大橋ほか, 2003)。

本研究では、Nemoto and Ohashi (1999) によって指摘された標本を含めて、過去にオオバメドハギやカラメドハギと

同定された標本の見直しを行うとともに、緑化資材に混入した外来メドハギの実態の把握を行うことを目的とした。

## 材料と研究方法

2007年に群馬県立自然史博物館 (GMNH) 収蔵品に加えて沼田市立図書館収蔵の武井武一コレクションの中からオオバメドハギ及びカラメドハギと同定された植物についてその種の確認を行った。さらにこれらの機関に収蔵された *Lespedeza* 属全種についても種の確認を行った。

2005年～2007年の間に群馬県内の河原、林道、造成地を踏査し、明らかに外来種のメドハギ類と思われる植物が出現した場合、標本を採集し、群馬県立自然史博物館に収蔵収蔵した。また、その重複標本は国立科学博物館 (TNS) にも収蔵した。

## 結果と考察

沼田市立図書館武井武一コレクションのオオバメドハギ標本は昭和32 (1957) 年6月13日に前橋市岩神で採集され、桧山庫三氏によってオオバメドハギと同定された1点であった。この標本には「*Lespedeza juncea* (L.f.) Pers. カラメドハギ 根本智行 1999. Feb. 9」のAnnotation Cardが添付されていた (表1)。これはNemoto and Ohashi (1999) によってこの標本がオオバメドハギではない見解が出されたときのものである。現在 *Lespedeza juncea* に対してはシベリアメドハギの和名が充てられていて、カラメドハギには *Lespedeza inschanica* が充てらる (大橋, 2003; 大橋ほか, 2003)。さらに武井武一コレクションの中には学名の記入がなく「カラメドハギ」の和名が記入された標本が含まれていた (昭和31年10月15日 前橋市大渡産) が、この標本もシベリアメドハギであった (表1)。

群馬県立自然史博物館に過去に寄贈され、旧版群馬県植物誌のもとになった戸部正久氏のコレクションからはオオバメドハギやカラメドハギに該当するものは見いだせなかった。新版群馬県植物誌のもととなった須藤志成幸コレクションにはオオバメドハギ、カラメドハギとラベルに記

入されたものが含まれていたが、これらはいずれもメドハギ (*Lespedeza cuneata* (Dum. Cours.) G. Don) またはシベリアメドハギであった (表1)。さらに群馬県立自然史博物館所蔵の他の標本の中にもオオバメドハギやカラメドハギに該当するものは見いだせなかった。これらのことから、群馬県植物誌のリストが作成された1980年頃までに群馬県からはオオバメドハギもカラメドハギが群馬県内に分布する証拠は見いだせなかった。



Fig. 1 *Lespedeza davurica* from Annaka, Gunma Prefecture (T. Ohmori 6318 in GMNH)

表1 群馬県産「オオバメドハギ」, 「カラメドハギ」ラベル付き標本とその同定結果

収蔵機関	収蔵番号	採集者	採集地点	原ラベル和名	同定結果
沼田市立図書館		武井武一	前橋市岩神	オオバメドハギ	<i>Lespedeza juncea</i>
沼田市立図書館		武井武一	前橋市大渡	カラメドハギ	<i>Lespedeza juncea</i>
GMNH	BS31735	須藤志成幸	尾島町利根川	オオバメドハギ	<i>Lespedeza juncea</i>
GMNH	BS31738	須藤志成幸	板倉町谷田川	オオバメドハギ	<i>Lespedeza cuneata</i>
GMNH	BS31778	須藤志成幸	伊勢崎市利根川	オオバメドハギ	<i>Lespedeza cuneata</i>
GMNH	BS31779	須藤志成幸	尾島町利根川	カラメドハギ	<i>Lespedeza cuneata</i>
GMNH	BS31780	須藤志成幸	嬭恋村三原原	オオバメドハギ	<i>Lespedeza cuneata</i>

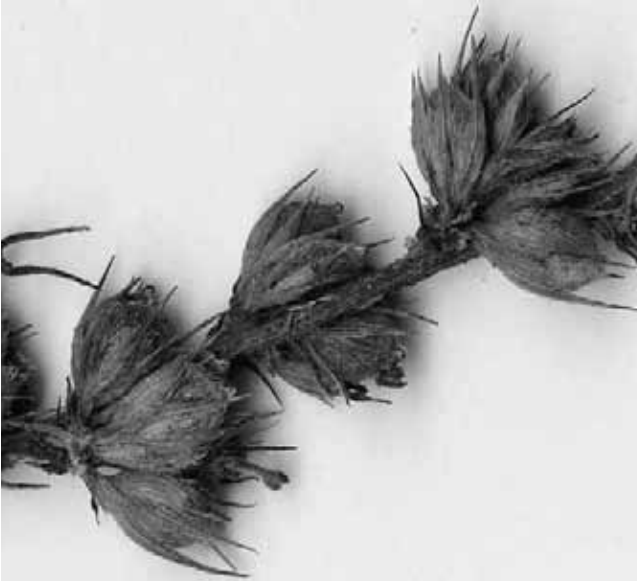


Fig. 2 Inflorescens of *Lespedeza davurica*, long blactlets are conspicuous (T. Ohmori 6318 in GMNH).

2007年9月29日に安中市秋間みのりが丘でオオバメドハギ (*Lespedeza davurica* (Laxm.) Schindl.) が採集された (Fig.1,2 証拠標本 大森威宏6318)。生育地は住宅団地の中の道路のり面で、オオバメドハギとともに中国に分布するトウク

サハギ (*Lespedeza floribunda* Bunge) が大量に生育しており、オオバメドハギも中国産種子に混入していたものと考えられる。また、この場所では、この2種とともにメドハギとシベリアメドハギも生育しており、これらも中国からの種子に由来すると考えられる。

## 謝 辞

本研究にあたり、標本の閲覧について沼田市立図書館星野 盾氏には便宜をはかっていただいた。感謝する次第である。

## 引用文献

- Nemoto, T. and Ohashi, H. (1999) : A New Species of *Lespedeza* (Leguminosae) from Japan, *J. Jap. Bot.* **74**: 268- 281.
- 大橋広好 (2003) : マメ科 LEGUMINOSAE. 「日本の帰化植物」. 清水建美編, 平凡社, 102-124pp.
- 大橋広好・根本智行・伊藤隆之 (2003) : ハギ属の帰化植物4種, *植物研究雑誌* **78**: 50-54.
- 佐々木 寧 (2002) : 法面緑化における外国産種子の侵入. 「外来種ハンドブック」. 日本生態学会編, 地人書館, 212-213pp.
- 戸部正久・里見哲夫・島野好次・松沢篤郎・須藤志成幸 (1987) : 群馬県自生高等植物目録. 「群馬県植物誌 改訂版」. 群馬県, 153-393pp.

